

鹿児島国体・障スポの延期にかかる対応について

1 主な経過

時期	内容
6/11 (木)	<p>来年度以降の開催予定県（三重県・栃木県・佐賀県・滋賀県）で、日本スポーツ協会等の関係機関に以下のとおりWEBにより要望を実施。</p> <p><主な要望事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・後催県の意見を聴取すること。 ・1年延期など後催県に大きな影響を与える対応を行われる場合、県民への説明責任が生じることからその理由と、開催年をターゲットに準備を進めてきた選手への対応策や、市町、競技団体などの皆さんが納得できる支援策を示すこと。
6/19 (金)	<p>鹿児島国体・障スポについて、日本スポーツ協会・日本障がい者スポーツ協会、スポーツ庁、鹿児島県が記者会見で以下を発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年の秋には開催しない。具体的な開催時期は引き続き調整・検討する。
6/26 (金)	<p>日本スポーツ協会、日本障がい者スポーツ協会、スポーツ庁、鹿児島県、佐賀県、滋賀県の実務者によるWEB会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐賀県、滋賀県から、開催準備の取組状況を説明のうえ、選手強化への影響を指摘。
7/31 (金)	<p>鹿児島県知事と佐賀県知事による面談</p> <p>【面談の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島県知事が佐賀県知事に鹿児島国体を令和5年(2023年)開催とするよう依頼。 ○佐賀県知事 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「SAGA2023」を掲げて準備してきた中、簡単ではない。 ➢ 要請を承ったので、県議会、スポーツ団体、県民の意見を聞いていく。 <p>【面談後の記者に対するコメント（ぶらさがり時）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○佐賀県知事 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 簡単なことではないが、佐賀国スポの令和6年開催を念頭に調整したい。
8/5 (水)	<p>鹿児島県知事とのWEB面談</p> <p>【面談の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島県知事から「2023年に鹿児島国体・障スポを開催させてほしい」との要請。 ○滋賀県 三日月知事 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 2023年に希望されたことは、開催決定県と開催内定県の違いという点で一つの選択肢としては理解。ただ、延期は様々な影響があり、とりわけターゲットエイジに指定され強化に取り組みられてきた選手や指導者への影響が大きい。こうしたことを考慮すると、非常に重い判断が必要。 ➢ 佐賀県の意向も確認しつつ、日本スポーツ協会等の方針を聞いた上で、競技団体、市町、県議会に意見を伺い、検討していきたい。

時期	内容
8/6 (木)	<p>日本スポーツ協会会長・スポーツ庁次長と佐賀県知事による面談</p> <p>○日本スポーツ協会会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>2023年に鹿児島国体・障スポを開催することで調整を進めたい。</u> ➤ <u>佐賀県が2024年に開催する場合でも「最初の国民スポーツ大会」とする。</u> ➤ <u>2023年の実施予定の競技・種目は、開催年が2024年になっても、変更しない。</u> <p>○佐賀県知事</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>先日の鹿児島県知事の発言は重く受け止めた。みんなで痛みを分かち合う、みんなで良い方向になるようにという中で、我々はこれまで準備してきた<u>競技団体、アスリート、市町などの意見を聞いて、考えを整理していきたい。</u></u>
8/19 (水)	<p>佐賀県による意向表明</p> <p>○佐賀県知事</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>日本スポーツ協会 伊藤会長から、<u>競技種目は開催年が変わっても変更しないこと、最初の国スポは佐賀とすることについて確約いただき、この問題の検討に当たった最低条件がクリアされた</u>と認識。こうしたことを踏まえ、2023年を目指してきた中、極めて重い苦渋の決断になるが、<u>鹿児島国体の2023年開催と佐賀国スポの2024年開催を受け入れる。</u></u> ➤ <u>少年の部で活用できるよう個人支援を行う新たな制度の創設や、競技団体が選手育成に一層取り組むことができる支援制度の充実により、2023年の鹿児島国体と2024年の佐賀国スポの両方で選手が活躍できるようにする。</u>
8/26 (水)	<p>日本スポーツ協会会長、スポーツ庁次長等との面談</p> <p>○日本スポーツ協会 伊藤会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>滋賀県の両大会を令和7年(2025年)の開催で調整させていただきたい。市町や競技団体、県民、開催年に向けて強化されているアスリートの方々には大変申し訳ない。</u> ➤ <u>滋賀国スポで実施予定の競技・種目については一切変更しない。</u> ➤ <u>スポーツ界をあげて日本全体で痛みを分かち合い、皆で力を合わせて乗り切りたい。重い判断になると思うが、御理解と御配慮を賜りたい。</u> <p>○スポーツ庁 藤江次長</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>国民体育大会に対する国庫補助の今年度分の活用や、今後の概算要求での感染症対策に関する経費の増額要求など、できる限りの支援策を検討している。</u> <p>○滋賀県 三日月知事</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>コロナの問題を皆で分かち合うことは重要と認識。一方で、2024年を目指してアスリートの強化など様々な準備を行ってきた。少し時間をいただいて、今日の話に関係者と共有し、県としての考え方をお伝えできるようにしてまいりたい。</u>

時期	内容
8/28 (金)	<p>市長会議</p> <p>「鹿児島国体・障スポの延期にかかる対応について」</p> <p>●主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ ターゲットエイジに対する配慮や対応が示されない時点では 2024 年堅持との回答しかできない。 ➢ 原因はすべてコロナ。この厳しい現実をしっかりと受け止め、重い決断を皆がしないといけない。 ➢ 国に十分な支援を求めるべき。競技団体や市町の負担とならないようにすべき。 ➢ 県がどうしたいか明確に示して、市町に意見を聞くというスタンスが必要。 ➢ 滋賀県が 2024 年に開催することは現実的に可能か。余地がないなら、意見しても意味がない。 ➢ 犠牲になるのは選手や県民であり真摯に考えていただき、早く次の体制を考えて、きめ細やかに対応しないと、大会の成功に関わると心配。 ➢ 今後も起こりうる問題であり、主催者には、ルール化をしてもらいたい。
9/1 (火)	<p>県議会教育・文化スポーツ常任委員会</p> <p>「鹿児島国体・障スポの延期にかかる対応について」</p>

2 今後の予定

時期	内容
9/7 (月)	<p>県議会国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会対策特別委員会</p> <p>「鹿児島国体・障スポの延期にかかる対応について」</p>
9 月 中	<p>各市町、競技団体、県スポーツ協会、県障害者スポーツ協会、県議会等の意見を踏まえ、延期要請に対する滋賀県の方針を整理。</p>
	<p>県方針の公表。</p>

3 延期（1年順延）についての市町・競技団体等からの主な意見

<市町>

（ターゲットエイジの選手への影響を懸念する意見）

- 延期した場合、ターゲットエイジ強化選手（現在の中学生 2 年生。2024 年に高 3）が地元大会に出場できなくなり、影響が大きい。

（延期はやむを得ないとする意見）

- 新型コロナウイルス感染症拡大という事情を勘案すると、順延は致し方ない。ただ、選手や指導者、競技団体等の意見や思いを汲み取っていただきたい。
- 施設整備の進捗状況を踏まえると、大会運営に万全を期すため、延期の受け入れは理解。

(支援を求める意見)

- 1年順延の場合、順延により膨らむ経費(組織体制の維持や施設の維持に係る費用など)のため、県による支援措置の拡充が必要。

(日本スポーツ協会・スポーツ庁の進め方についての意見)

- 本来なら、一定のロジックによる調整方法(手順)をルール化されるべきだった。

<競技団体等>

(ターゲットエイジへの影響を懸念する意見)

- ターゲットエイジの選手が少年種別での出場機会を失う。成年種別になれば上位入賞はもとより出場の可能性も低くなる。
- 滋賀県のために日夜練習に励んでいる選手に対してかける言葉もない。

(成年選手への影響を懸念する意見)

- ふるさと選手で出場を要請しようと考えている選手の年齢が上がってしまう。

(選手強化への影響は限定的とする意見)

- 延期の場合、少年の強化計画の変更が余儀なくされるが、高校生以下の競技力が向上することに変わりなく、今後のインターハイ等全国大会の競技成績が向上する可能性は高まる。このことは少年のみならず成年にも同様のことが言え、無駄な投資にはならない。

(支援を求める意見)

- 延期で対象年齢除外となる選手について、今後、競技力向上、普及、発展に貢献してくれる人材に導けるよう、継続支援など、県独自の配慮策を検討してほしい。
- ターゲットエイジの選手のメンタル部分のケアを行っていく必要がある。
- 1年延期となっても強化費は現状どおりでお願いしたい。

(競技役員等の養成への影響を懸念する意見)

- 競技役員・審判員の養成の事業にも影響が出る。

(やむを得ないとする意見)

- 鹿児島県の苦労や心情等を考えると理解でき、できるだけ早期に開催したいという思いは尊重すべき。滋賀が同じ立場であれば、同じような要望をしたいと考えるのが普通。
- スポーツ界全体で協力して解決すべき事案であり、近年開催予定の県が譲歩すべき。

(延期によるメリットについて触れた意見)

- 一部競技では、大会使用会場での練習機会が増えることでメリットがある。

(日本スポーツ協会・スポーツ庁の進め方についての意見)

- 順延に向けての協議を滋賀・佐賀・鹿児島の3県同時にされるべきだった。
- スポーツ庁や日本スポーツ協会が主体的に延期のルールづくりを行うべき。